

台風18号の接近に伴う被害防止対策について

気象災害対策H27-10
平成27年9月8日
農林総合研究センター

I 被害防止対策 詳しい台風情報、解説は最終ページ

(見出し)

台風第18号は、父島の西約400キロを1時間におよそ25キロの速さで北へ進んでいます。

明日、9日(火)には日本に接近し、石川県には10日(水)に最接近する進路予想となっています。

今後の台風情報に十分注意し、万全の対策を講じて下さい。

(要旨)

- (1) 水稲では、収穫期となっているほ場は、できるだけ刈り取り作業を進める。また、倒伏したほ場では、穂発芽等による品質低下を防ぐため、排水に努める。
- (2) 野菜や花きでは、大雨に備えてほ場の排水対策に努める。露地のなすは早めの収穫、ねぎは倒伏防止策を実施する。園芸施設は、施設内に風が吹き込まないようにハウスバンド等を点検する。
- (3) 収穫中のなし、りんご等は、熟度を確認し、出荷基準を満たしているものは早急に収穫、出荷する。大雨を伴う場合は排水溝を設置するなど園内の排水対策を行う。

(詳細)

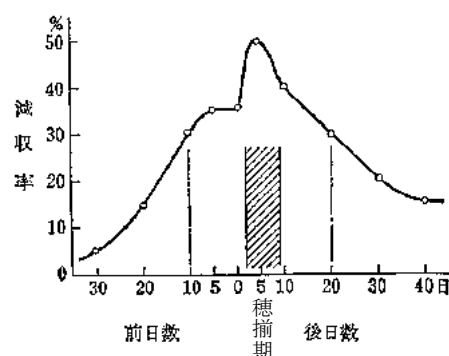
II 農作物の被害防止対策

1 水稲

現在、コシヒカリ等の中生は収穫期となっている。まだ成熟期に至っていない直播、晩植を中心に、強風、高温、豪雨への対策が必要である。

(1) 台風通過前の対策

- ① 収穫期となっているほ場では、できるだけ刈り取り作業を進める。
- ② 刈り取りまでに日数のある直播や晩植ほ場においては、フェーン等の強風が予想される場合はあらかじめほ場へ入水し、水分ストレスや高温による稲体の消耗を防ぐ。



暴風によるイネの生育時期別減収率
(坪井, 1974)
30~35m/秒の暴風が5時間吹走したばあい

(2) 台風通過後の対策

- ① 倒伏したほ場では穂発芽等による品質低下を防ぐため、排水に努めるとともに刈り遅れとならないように適期収穫に努める。
- ② 倒伏した稲や高水分での刈り取りを行う場合は、こき胴の掃除等を行って選別が悪くならないように注意する。
- ③ やけ米防止のため、収穫した生籾はすみやかに乾燥機に張り込み、通風を行う。生籾を4時間以上放置することは避ける。特に高水分籾では注意する。

2 大豆

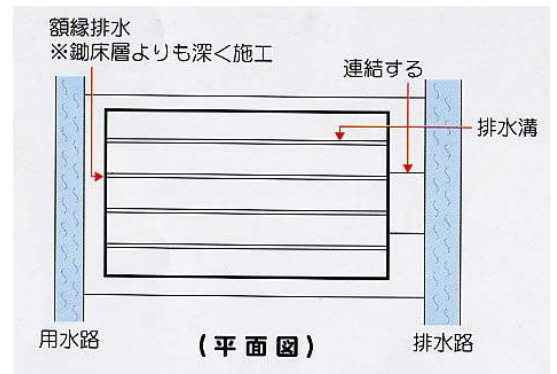
現在、子実肥大期である。強風や豪雨による茎葉や莢の損傷、根の活力低下に注意が必要である。

(1) 台風通過前の対策

- ① 事前に排水溝を点検・整備しておく。

(2) 台風通過後の対策

- ① 降雨では場が長時間冠水した場合、根腐れを起こすので、台風通過後は速やかな排水に努める。
- ② 降雨を伴った強風の場合は、莢腐敗の発生が懸念されるので、薬剤防除を実施する。



3 野菜・花き

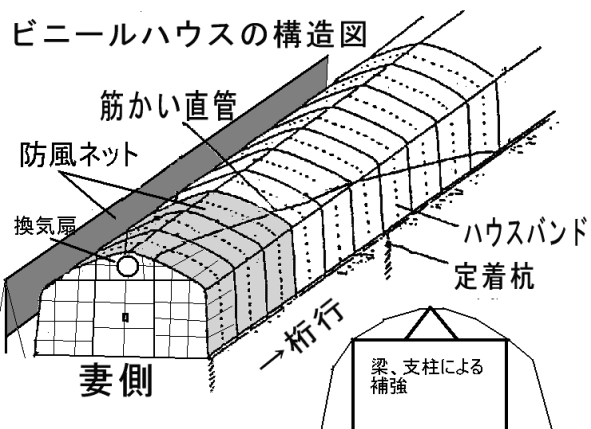
(1) 台風通過前の対策

【園芸施設（トマト、きゅうり、メロン、軟弱野菜、ストック、はばたん等）】

- ① ハウス周囲の排水溝を整備し、施設内への浸水を防ぐ。

- ② 施設内に雨風が吹き込まないように、サイドのフィルムを張り、破損箇所は速やかに補修したり、ビニールのバタつきを防ぐためにハウスバンドを締め直すなど点検・整備を早急を実施する。

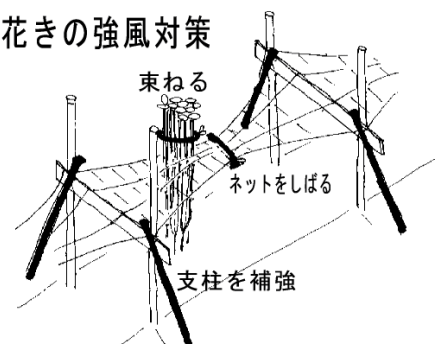
- ③ 暴風時のフィルムやパイプの浮き上がりを防ぐため、ハウス本体の直管と別に桁行直管にハウスバンドを張り、フィルムを固定する。



【露地立体栽培（なす、まるいも、ふじまめ、きく等）】

- ① ほ場の排水溝を点検し、大雨時の冠水を防ぐ。
- ② なすやきゅうりなどの果菜類では、収穫可能な大きさのものは早急に収穫する。
- ③ 筋かいや直管で棚を相互に連結し、また

花きの強風対策



周囲杭等と棚を固定し、棚全体を補強する。

- ④ きくなど立体栽培の花きは、鋼管支柱を3～5m毎に打ち込み、ネットを補強する。さらに、うねの中央に数m置きに支柱を立て、支柱を中心にネットを絞り込み、茎葉を固定する。

【露地地這栽培（ねぎ、だいこん、にんじん、さつまいも）】

- ① ほ場の排水溝を点検し、大雨時の冠水を防ぐ。
- ② だいこん等で幼苗期のものは、風雨での損傷を防止するために、寒冷紗などのべたがけを実施する。
- ③ ねぎはパイプ支柱を1.8m間隔に立て、2本のハウスバンドで挟み込むように連結結束し、横ゆれを防止し、葉の損傷や倒伏を抑制する。

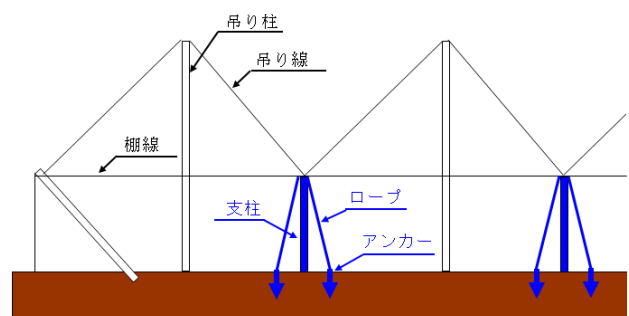
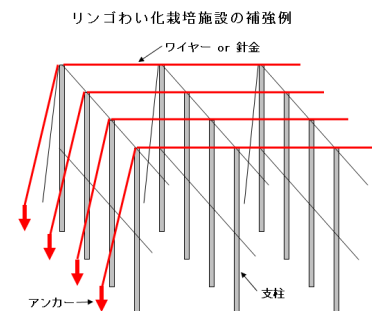
(2) 台風通過後の対策

- ① 豪雨によりほ場が冠水した場合は、3時間以内ではほとんど悪影響はないが、3時間を超えると高温によるむれや、根腐れによる被害が発生しやすくなるため、直ちに表面排水に努める。
- ② 砂丘畑等では強風や飛砂で茎葉が傷んだ場合は、通過後直ちに速効性肥料で追肥する。また、茎葉が風雨でもまれた場合は、病害が発生しやすいので、殺菌剤による予防を行う。
- ③ 花きでは風で茎が斜めになった場合は、台風通過後2～3時間以内にネットを起こし元に戻す。特に露地ぎくでは起こすのが遅れると茎の曲がり定着して、元に戻らなくなるので注意する。
- ④ 花木・枝物の枝折れに対しては、枝の裂け等損傷の無い部分まで切りもどす。

4 果樹

(1) 台風通過前の対策

- ① 収穫中のなし、りんご等では、熟度を確認し、出荷基準を満たしているものは早急に収穫、出荷する。
- ② 高接ぎ更新などの接ぎ木部分は風に弱いため、支柱を添えて必ず補強する。また、以前に裂けた枝、裂ける危険のある箇所についても補強が必要である。
- ③ 防風施設は支柱を点検し、ネットの破れ等は補修し架線にしっかり固定する。
- ④ りんごのわい化栽培では、支柱の上部をワイヤ等で連結し補強する。
- ⑤ ぶどうの収穫が終了した園は、速やかにビニールをはずす。また、防鳥網、防風ネットは風で飛ばされないようしっかり固定する。
- ⑥ なしの果実落果の原因は、大半が風圧による果樹棚の上下動が原因であることから、必要



に応じて支柱・アンカー等で棚面を補強し、揺れを抑える。

- ⑦ りんごの普通栽培やかきでは、枝の揺れによる落果を防止するため、枝の結束や支柱立てを行う。特に、結実の多い枝は、抵抗が大きく揺れやすいので注意する。
- ⑧ キウイフルーツ、いちじく等の新梢は折れやすいので、新梢を棚面や支柱等に固定する。特に、いちじくは、葉擦れが原因でサビ果が発生するので新梢が揺れないようしっかりと固定する。
- ⑨ 大雨を伴う場合は、排水溝を設置するなど園内の排水対策を行う。
- ⑩ 強風による事後対策のための資材等を予め準備しておく（薬剤、補修資材等）

（２） 台風通過後の対策

- ① 落果した果実は、早急に集め用途に応じて早めに処分する。
- ② 倒伏樹は速やかに起こし、支柱で固定する。太根の切断が著しい場合は、その程度に応じて地上部を切りつめる。
- ③ 枝が裂けた場合は、傷害部を削り取り、塗布剤で処理する。
- ④ 強風で葉や新梢が傷ついた場合は、速やかに灌水を行うとともに、病害の発生による２次被害を防ぐため、殺菌剤を散布する。なお、落葉が激しい場合は摘果の見直しを実施する。
- ⑤ ビニールハウス、果樹棚、支柱が損傷した場合は、今後の気象災害に備えて早急に補修する。
- ⑥ 雨水が長時間に渡り滞水しないよう排水対策を講じる。

5 畜産

（１） 台風通過前の対策

- ① 強風に備え、畜舎内の窓、戸等の破損箇所は速やかに補修する。
- ② 東西棟畜舎は南側に最も強い風圧力がかかるため、ワイヤ等で補強し、倒壊を防ぐ。
- ③ 暴風時は畜舎を密閉し、換気扇を稼働させて換気を行う。
- ④ 停電によって搾乳作業やバルククーラーが止まることが予想されるので、緊急時の発電機の確保を検討しておく。

（２） 台風通過後の対策

- ① 畜舎の再点検を行い被害箇所の修理を行う。
- ② 大雨で畜舎への浸水があった場合は、排水に努め、水が引いた後、速やかに畜舎、家畜、設備器具の水洗、乾燥、消毒を実施する。特に、搾乳機器は故障箇所の点検を行い、消毒等の衛生対策を徹底する。

6 飼料作物

（１） 台風通過前の対策

- ① 大雨に備え、ほ場に排水溝を設けて表面排水を徹底する。
- ② ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールは、

網をかけるなど強風による破損を防止する。

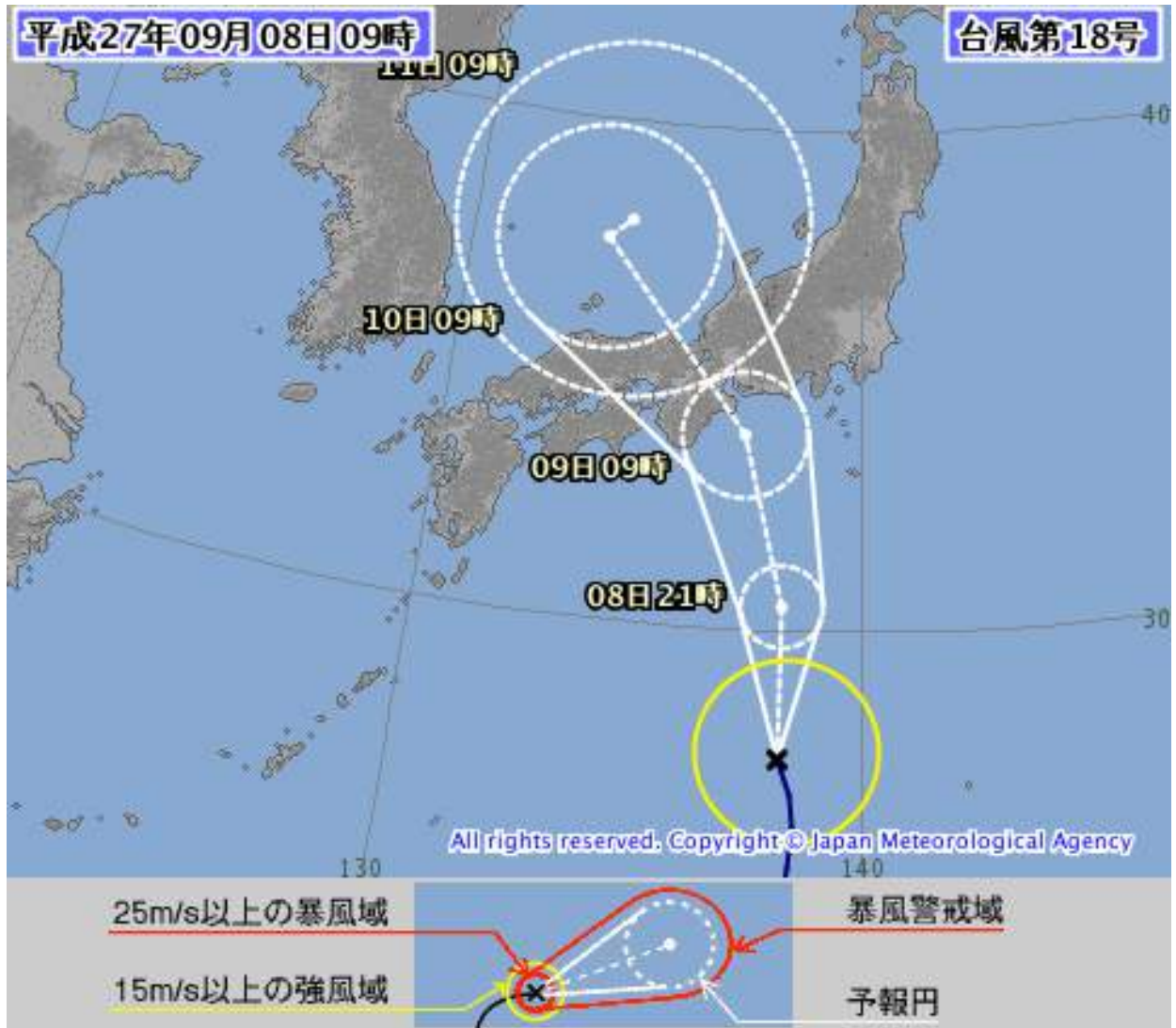
- ③ 収穫期を迎えている飼料用トウモロコシやソルガムなどの飼料作物や牧草は、天候をみて早急に刈取りする。(倒伏したものは速やかに収穫し、品質の低下を防ぐ。)

(2) 台風通過後の対策

- ① ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールに破損箇所があれば、再度ラッピングか、テープを貼るなどして、サイロの気密性確保に努める。
- ② 大雨で泥水を被ったほ場の飼料作物は、基本的に刈り取り廃棄する。軽度の場合でもサイレージ調製する場合、劣質化しやすいので、ギ酸などの有機酸を添加する。

Ⅲ 気象の概況

台風の進路予想



<08日09時の実況>

大きさ	-
強さ	-
存在地域	父島の西約400km
中心位置	北緯 27度 35分(27.6度) 東経 138度 10分(138.2度)
進行方向、速さ	北 25km/h(13kt)
中心気圧	996hPa
中心付近の最大風速	18m/s(35kt)
最大瞬間風速	25m/s(50kt)
15m/s以上の強風域	北東側 220km(120NM) 南西側 170km(90NM)

